

防災意識、震災により一層高まる！

市民センターから見た南中生

南光台復興新聞

一発行所一

仙台市立南光台中学校
広報委員会

仙台市泉区南光台
七丁目24番1号
TEL 022(388)1261
FAX 022(388)1262

南光台市民センターは震災で建物の損傷が著しく、立ち入ることができなくなり皆様には大変なご迷惑をおかけ致しております。

職員は3・4月、避難所になった若林区・宮城野区の市民センターへ応援に行きました。長期の避難所生活を送らなければならぬ被災者の方々と接し、復興への思いを強くいたしました。

そんな中で、老壮大学の「南光台学院」が開講式を迎え、南光台中学校の「南中合唱コンクール」では地域のコーラスグループ4団体が先生方と一緒に歌いました。「南光台レスキュー教室」では南光台中学3年生全員が地域の方と一緒に様々な実技訓練に参加しました。このように事業がスタート致しましたが、会場

がそのつど変わるなど参加者の皆様にはご不便をおかけ致しております。その分内容を充実させ、有意義な事業を展開していく決意です。

今回の震災は、多くの方々にも様々な思いを残したことと申します。南光台中学校と連携して行ってきた「防災講座」は今年で4年目を迎えます。地震を経験した中学生の感想はとりわけ印象的でした。怖かったが、みんながいてくれて安心した。人との繋がりが大切さがわかった。普通に暮らせることの幸せがわかった。つらいニュースばかりで悲しかった。二度と忘れない。いずれも前向きで、今後の日本を担う世代の力強さに安心しました。復興の大きな力になっていくことでしよう。市民センター・三野宮

仮設校舎の完成により、四月以来続いている分散状態が解消され、全校児童がそろっての学校生活によりやく戻ることができそうです。

小学校は今

南光台小学校 校長 坂塚 巖

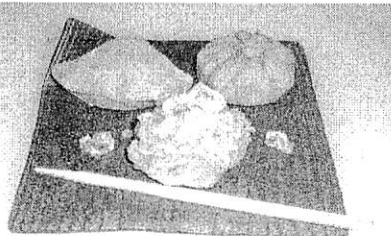
南光台小学校は、震災から半年すぎた今も、南光台コミュニティセンター 一年生、南光台中学校 二・三・四年生とひかり学級 八乙女中学校(五・六年生)での分散状態が続いています。

南光台小学校は、震災から半年すぎた今も、南光台コミュニティセンター 一年生、南光台中学校 二・三・四年生とひかり学級 八乙女中学校(五・六年生)での分散状態が続いています。

夏場のプール学習(唯一使用できる施設でした)は、暑い日が続く中、それぞれの場所から南光台小学校に通って実施しました。

南光台小学校の校庭では、現在、プレハブの仮設校舎の建設が急ピッチで進められています。

今、全児童がそろってを心待ちにしています。今後とも、ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。



↑ 南中生が製作した和菓子

← 自分で作った和菓子を食べながら、駒井さんのお話を聞く南中生。

『すみません、お茶のおかわりをいただけますか？』



本来なら4月の20日から出かけるはずだった、3年生「最大の行事」修学旅行・・・

東日本大震災で、新幹線も仙台駅も使えないという状況の中、中止も検討されました。仙台市内では、5月に東京方面の修学旅行を実施する中学校が比較的多いのですが、新年度開始の段階で、新幹線の復旧がいつになるやら見当もつかず、やむを得ずバスに切り替えたものの震災の影響で高速道路もガタガタ。移動にとってもなく時間がかかって大変だった・・・という話を他校の先生から聞いていました。

奈良・京都の宿泊先の皆様、JRの皆様のご厚意で、5ヶ月遅れながらも無事に、ほぼ当初の予定通りに実施することができました。ご支援くださった方々に感謝、感謝です。

一日目は法隆寺を見学した後に、奈良に宿泊。二日目が、待ちに待った「自主研修」でした。この日のために、準備を(約10ヶ月間)してきたと言っても、過言ではありません。

5か月遅れの修学旅行

18のグループに分かれて、奈良から京都まで移動をし、京都タワーや金閣寺・銀閣寺などを見学。バスや地下鉄のルートも自分たちで調べ、座禅・檜皮葺・町屋の暮らし・和文・西陣織・友禅染・京菓子などの体験にも参加しました。体験場所の一つ、京菓匠 甘春堂では、職人歴60年以上という駒井さんから季節の和菓子の作り方を教わりました。駒井さんが菓子職人を目指したのは終戦直後の昭和20年。まともなものが何もない時代に、おいしい和菓子を通して癒しも供給したいと考えて、今まで仕事を続けてこられたそうです。

南中生は戦後(しかも平成)生まれですが、3月の震災で『お金があっても、ものがない』『買い物は行列に並んで』を経験しています。駒井さんの『食が一番大事』というお話し、大いに共感しました。この経験をこれからの中学校生活に生かしていきたいと思えます。